

その結果、マウスと近縁なラットやハムスターの顎下腺や顎下腺以外のマウスの各臓器に抗 TAMEase 抗体と交叉反応する分子や TAMEase 活性がほとんど認められず、TAMEase はマウス顎下腺にかなり特異的に存在することが判明した。また、マウス顎下腺において雌雄で程度の差はあるが、成長に伴い TAMEase 分子の含有量が増加することが判明した。さらに雌では活性はないが抗 TAMEase 抗体と結合する分子が存在し、不活性な酵素前駆体の存在が推測される。

演題10. 紅参の metabolic modulator としての作用の検討

○高橋 栄司, 藤岡 由紀*, 伊藤 忠信*

岩手医科大学歯学部内科学

岩手医科大学歯学部歯科薬理学講座*

薬用人参が疲労感, 不眠, 手足のシビレ, 冷感などの訴えを改善し, 特に, 低血圧合併の症例に著明に効果的であることは, 臨床使用経験上よく認められることである。しかし, いかなる機序で, これら自覚症状に効果をもたらすのか不明である。そこで今回, 実験

前段階として幼若ラットに紅参末を経口投与し, 血圧, 血液生化学的一般検査所見, 各種ホルモン分泌に及ぼす影響を検討したので報告する。

ウイスター系雄性ラット(4週齢)を用い, 紅参末経口投与群6例, 対象群4例とした。紅参末投与量は, 投与開始1週は100mg, 2週は300mg, 3週は500mg, とした。投与開始日より血圧・脈拍を測定し, 4週目で, 採血し, 生化学的検査, 各種ホルモン検査に供した。同時に副腎を摘出し, 組織内カテコールアミン測定に供した。

〔結果〕1. 紅参末投与群と対象群では, 血圧の変動脈拍の変動に差異は認められなかった。

2. TTT, ZTT, T-Bil, D-Bil, TP, LAP (肝機能), Ca, BVN, VA, Crnn, (腎機能), TC, TG, PL, HDL (脂質) には, 差異が認められなかったが, 血清Pは, 投与群で増加する傾向にあった。

3. 血糖, インスリン分泌値は, 投与群が減少する傾向にあった。

4. 血中カテコールアミン(ノルアドレナリン, アドレナリン)および副腎内カテコールアミンは, 投与群で著明に増加した。しかしドーパミンには変化がみられなかった。

5. T₄ は, 投与群で増加する傾向にあった。

発行日の変更について

次号誌(11巻3号)より、原稿締切り日と発行予定日を次のように変更いたします。

11巻3号 投稿締切 昭和61年10月15日

発行予定日 昭和61年11月末日

12巻1号 投稿締切 昭和62年2月15日

発行予定日 昭和62年4月末日

12巻2号 投稿締切 昭和62年6月15日

発行予定日 昭和62年8月末日

投稿規程が若干かわりました。本誌166頁の投稿の手引きに従ってご執筆下さい。所定の原稿用紙は学会事務室に備えてあります。無料ですのでお申し出下さい。

〔訂正〕 11巻1号(1986年) 60頁(右) 下から12行目 髓中隔→骨鼻中隔

下から13行目 形態的鑄微→形態的特徴